

研修だより

矢島小学校

4

04.5.11

少人数指導のための「実態調査」

実態調査のポイントについて、中田正弘氏（東京都教育庁指導部指導主事）は、次の点をあげています。＜『学校運営研究』（明治図書）2003.5月号＞

どのような集団編成をすることで効果的な学習が成立するかを検討する。
そのために個人差をどう把握し、集団編成に生かしていくかを検討する。

具体的には、少人数指導の指導体制によって、次のようになります。

習熟度別学習 = 指導内容にかかわる理解度、習熟度の実態把握
課題選択学習 = 子どもの興味・関心や課題に対する意識の実態把握
学習別方法学習 = 子どもが取り組んでみたい学習方法の実態把握

＜『学校運営研究』（明治図書）2003.5月号：中田正弘論文＞

本校で今まで考えられてきた実態調査とは、主として指導内容の理解度や習熟度にかかわる実態把握だったのではないのでしょうか。教科によって、単元によっては、これ以外の実態把握も必要となってくるでしょう。さまざまな角度からの実態把握をしていきたいものです。

そこで大切なことは、「はじめに実態調査ありき」ではないということです。

子どもたちが意欲をもって学習に取り組めるようにするために、実態調査の方法と活用の仕方に工夫が必要になってきます。

4年生算数の習熟度別少人数指導を想定して、中田氏は、次のような実態調査問題の例を挙げています。

- 1 問目 = 考え方や解き方が分かっているかを見る問題
- 2 問目 = 速く確実に解けるかどうかを見る問題
- 3 問目 = 習ったことを種類の違う問題に生かして解けるかどうかを見る問題

子どもは、自己採点し設問の意図をもとに自己の課題を見つけます。そして、子ども自身が、自己評価を通して課題を見つけ、自分が学ぶコースを決めます。（もちろん教師との相談あり）

教師が子どもの学習状況を把握するための実態調査に終わらず、子どもが自己評価、自己決定するための調査に活用していくことで、その効果は倍増するに違いありません。